

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0990800054		
法人名	医療法人社団 友志会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護 風わらう舎		
所在地	栃木県小山市大字小山111-1 (電話) 0285-31-0255		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年1月25日	評価確定日	平成20年2月21日

【情報提供票より】 (平成20年1月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人(うち兼務2人), 非常勤1人, 常勤換算6.55人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分		
------	-----------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活品費—333円/1泊 ・ 理美容代—1,500円 ・ おむつ代—84円/1枚 ・ パット—52円/1枚 ・ リハビリパツツ—168円/1枚 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成20年1月9日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	78 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小山市民病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、隣町で既にグループホームを運営している法人が、市の公募で選定され立ち上げられた。職員の半分は、認知症ケアに携わってきた職員が移動してきたが、職員間で話し合いを重ねながら一から新しい「家」づくりをしている。ホーム名に冠された「舎」は家の集合という意味もあり、それぞれの入居者の今までの生活を大切にするという職員の思いにも繋がっている。訪問時にも入居者と職員と一緒にキッチンに入り、調理、後片付けをしており、入居者ができることを一緒にしながら共に生活をつくっている様子がうかがえた。職員の話し方、態度、動き方、また入居者の表情も穏やかで、ホーム内には和やかな時間が流れていた。同じ建物内で、小規模多機能型居宅介護事業、認知症対応型デイサービスを実施しており、職員の連携もあることから、将来的には馴染みの職員との関係性のなかで「住み替え」ができるようになっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価の実施である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員を2人一組に分けて全員で取り組み、最終的に管理者がまとめた。ミーティングでは、職員から議題について事前アンケートをとるなどして積極的に話し合い、運営方法の改善などを図ってきている。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>自治会長、民生委員、家族の代表、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。運営推進会議では、事故報告・ヒヤリハット事例も含めてホームの状況を説明し、意見や要望を聞いている。建物の場所が分かりにくいのでは、という意見に基づき、看板の設置を検討したりしている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>ホーム内には入居者の日頃の様子を写した写真が多く飾っており、家族が訪問した際に暮らしぶりなどを報告している。体調に変化があったときなどは電話で連絡をしている。預り金は、個々人の出納帳を作成して利用料の支払時に確認してもらっている。職員の異動があったときには家族会で紹介した。管理者が苦情・相談の窓口になっており、市、国保連の窓口とともに重要事項説明書に明示している。家族会があり、年2回開催している。運営推進会議には家族の代表に参加してもらっている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>自治会に入会し、地域の行事に積極的に参加している。至近に保育園があり、定期的に行き来している。建物内の一部を地域交流スペースとして開放し、カフェとして利用してもらえるようにするなど地域に開かれたホームづくりをしている。地元自治会には公民館がないことから、地域貢献という意味でも交流スペースを使ってもらえるように考えている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家で生活しているように生活してもらうことを大切にしている。ホーム名に冠された「舎」は「家」の集合体ということを表しており、一人ひとりを大切にして支援することを理念としている。	○	運営規程を玄関に掲出しており、運営規程の中には家庭的、安心、尊厳などのキーワードが盛り込まれている。ホームの大切にしていることを、より分かりやすく伝えるためにも独自の言葉で周りに伝えていくということにも期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングなどでホームとして大切にすることを確認している。入居者一人ひとりの家庭的な生活を支えるために、職員間で話し合っって勤務時間帯の変更を行うなど、理念の実践に向けて取り組んでいる。また、毎月交替で職員目標を立て、ホーム内に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域の行事に積極的に参加している。至近に保育園があり、定期的に行き来している。建物内の一部を地域交流スペースとして開放し、カフェとして利用してもらえるようにするなど地域に開かれたホームづくりをしている。地元自治会には公民館がないことから、地域貢献という意味でも交流スペースを使ってもらえるように考えている。	○	交流スペースには、子どもが遊べるような工作グッズを置いたり、様々な年齢層にあわせた図書を置いたり、お茶が自由に飲めるようにしたりと工夫している。今のところ、あまり利用されていないが、将来的に地域の方々が集い、入居者と交流できるよう、今後も継続的に地域に向けて利用を呼びかけていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価の実施である。今回の自己評価は、職員を2人一組に分けて全員で取り組み、最終的に管理者がまとめた。ミーティングでは、職員から議題について事前アンケートをとるなどして積極的に話し合い、運営方法の改善などを図ってきている。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、家族の代表、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。運営推進会議では、事故報告・ヒヤリハット事例も含めてホームの状況を説明し、意見や要望を聞いている。建物の場所が分かりにくいのでは、という意見に基づき、看板の設置を検討したりしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームから情報提供したり、困ったときに相談をしたりはしているが、行き来するという関係にまでは至っていない。	○	運営推進会議への参加も含めて、市との連携を深められるよう働きかけをしていくことに期待したい。独自に介護予防教室などを開催しているので、地域の認知症ケアと一緒に推進していくという意味でも連携の強化を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム内には入居者の日頃の様子を写した写真が多く飾っており、家族が訪問した際に暮らしぶりなどを報告している。体調に変化があったときなどは電話で連絡をしている。預り金は、個人の出納帳を作成して利用料の支払時に確認してもらっている。職員の異動があったときには家族会で紹介した。	○	配布はしていないが、写真をふんだんに使ったホームだよりのものを作成し、ホーム内に飾っている。それを活用しながら、ホームだよりのとして家族等に配布していく、という検討にも期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が苦情・相談の窓口になっており、市、国保連の窓口とともに重要事項説明書に明示している。家族会があり、年2回開催している。運営推進会議には家族の代表に参加してもらっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設からは、法人内部での異動が1名あった。その際には引継ぎを行って入居者に影響が出ないように配慮した。職員がそれぞれの意見が言えるような環境をつくったり、役割を分担するなど全員参加でホームづくりに取り組んでいることが職員のやりがいに繋がっているように見受けられた。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修が2ヶ月に1回の割合であり、ホームからも参加している。外部研修は、希望をとったり、統括管理者が参加者を決めたりし、出張扱いで参加している。研修参加後は報告書を作成している。個人的に興味のある研修への参加や資格取得については勤務調整などをして参加しやすくしたりしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。他事業所からの見学を受け入れたり、電話等で情報交換をしたりしている。隣町に法人のグループホームがあり連携して質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	できる限り本人にも事前にホームに見学に来てもらうようにし、入居当初は入居者間の関係づくりを支援したり、家族と相談したりしながら徐々に馴染めるように配慮している。同じ建物内で認知症対応型デイサービス、小規模多機能型居宅介護を実施しており、職員の連携もあることから、将来的にはなじみの関係ができた状態での入居に繋がることも想定されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や洗濯物干し、畑仕事など、入居者のできることを勘案しながら一緒に生活をつくっていくことに努めている。訪問時も入居者と職員が一緒に食事づくりをしたり、洗い物をしている姿が見られた。昔のことを教わったりもしながら、職員と支え、支えられる関係を築いている。入居者同士支えあう姿も見られた。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴や特技等を聞き取り、個人別に台帳としてまとめている。入居者個々の要望や職員の気づきなどを話し合いながら本人本位の生活を支えられるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族に要望を聞き、また職員の気づきも取り入れながら計画を作成している。医療依存度の高い方に関しては医師の助言なども踏まえて計画作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月を目安に計画の見直しをすることとしており、状態の変化があった時には随時見直しをすることとしている。	○	定期的な見直しにあわせて、本人の暮らし方の希望や把握している生活歴、特技などを活かして、より充実した生活を支えるための計画の見直しをしていくことに期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けており、また法人内病院からの定期的な往診もあり、医療的な処置が必要であってもホームでの生活を支えられるようにしている。併設の事業所と一体的な運営をしながら、入居者の要望に柔軟に応えられるよう努めている。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が通院付き添いをする場合には情報交換をしながら、かかりつけ医で適切な医療が受けられるよう支援している。また、法人内の病院から週1回の往診が受けられる体制になっている。併設事業所の看護師にも相談ができる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときや終末期ケアについて指針を作成し、家族に説明、同意をもらっている。ホームでの生活の希望があれば、医療依存度が高まっても支えていく方針を職員間で共有し、そのための体制も整えている。これまでに医師と連携しながら終末期を支えた例がある。また、法人のOT、PTに助言をもらいながら、麻痺があっても使いやすいようにトイレの造りを工夫したりしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	例えば排泄介助では必ずドアを閉めること、など職員間で確認しながら誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。個人記録などは事務所で適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決まっているが、その他の時間は基本的に入居者のペースに合わせるように努め、そのために勤務時間帯の見直しなどもしている。訪問時も地域交流スペースで日向ぼっこをしたり、お茶をのんだり入居者それぞれに思い思いに過ごしていた。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者もキッチンに入って一緒に調理や後片付けをしていた。2つのテーブルを1つのテーブルとして使い、大家族で食卓を囲んでいる雰囲気があった。職員は1名が検食を兼ねて必要に応じて入居者の支援をしながら一緒に食べていたが、大皿のものなどのときは他の職員も同じ物を食べている。近くの畑で収穫した野菜が食材になることもある。	○	テレビの内容から職員が話題を広げたりしながら、楽しい食卓になっていた。より楽しい食卓作りという意味でも検食以外の職員も同じ物を一緒に食べることについて検討してみたいことを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を基本としているが、入居者の希望に応じて回数を増やしたり、夜間の入浴を支援し、ゆったりと入浴できるよう支援している。仲の良い方同士で入浴する方もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、後片付け、洗濯物干し・たたみ等の家事、畑仕事、買い物、レクリエーションなど、無理強いしないように配慮しながら、生活の中で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良いときには畑を見ながら散歩したり、近所の公園に出掛けたりしている。月に1回程度の行事的な外出や職員と一緒に買い物にも出掛けている。テラスで外気に触れながらお茶を飲んだりすることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーもあるが、職員が目配り、気配りで鍵をかけないケアを実践している。		

指定認知症対応型共同生活介護風わらう舎

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の定期的な避難訓練を実施している。また、職員が毎日設備点検をしている。地域の方々に協力が得られるよう働きかけており、また自治会が開催する避難訓練にも参加している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士である職員がカロリーなどに配慮しながら献立を作成している。献立には、「入れてほしいメニューがあったらぜひ教えてください。」という記載がある。食事摂取量は、血圧等のバイタルとともに個人別に記録している。水分は特に注意が必要な時以外は記録はしていないが、適切に摂取できるよう配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	さりげなさを意識しながら季節の花などを飾ったりして季節感を取り入れている。地域交流スペース部分は自由に出入りでき、入居者が思い思いの場所で過ごせるようになっている。日差しはカーテンで遮り、気にならないような時間になったらカーテンを開けていた。換気も適切に行われ、気になる空気やよどみ等はなかった。また、気になるような大きさの音もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れたものを持ってきてもらうように話をしている。テーブル、タンス、テレビなどを持ち込み、ベッドの向きなども使いやすいように変えて、それぞれの部屋づくりがされていた。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。